次第を電報を以て回答あつた、依つて陣情すべき事項あれば中央会の意思として、あらためて議し置くべき事。

（会長報告事項）

財産報告は千弗以上の所有者たらずとも、総て報告すべき筆にあつたから、所要紙を更めて配布すべきに付手續をとる。右は先般被仰蒙者は其必要なしと考ふる通達だつたのであつたが、今回方針を変へたものである。

Income tax の報告にて未了者、希望の者は米国関係官来訪につき夫々用紙に記入の事。

洗濯物は wool、絹、及びレオン等の衣類は洗濯所へ出さぬ様希望する、破損の恐れがあり、其他も可成的自分の手にて洗濯することが好い。

March 3（金）

（大佐総長平和提唱放送）

午前、レディオ放送ニュースと田中ドクターから報告、それに依ると、Stanford 大学総長ウヰルバー博士は米国が日に対し媾和提唱とするのは今が好時機に、今後両国関係が発展複雑する様子の場合は平和は困難であると、平和提議を提唱した云々。

同人の意見は例へ様もよく、意に叫ぶく成つた様に見られた。

ウヰルバー博士の敢然たる声は、従来米国内に潜在する見えざる大きな声である。所謂 Warmonger

の暴徒に附和する衆愚の盲目的愛國心動に恐怖し全く言論が圧迫されている結果、南米更に人道的の大部は黙としその只管戦いているだけの事だと思はる。蓋し今ねは一角の烽火に意近に反響を見るものと思はれる。

（スーツケース来る）

午前、木曾夫人からスーツケースに、洋服及び寝巻、靴下（約二打）、夏下衣、カラヤーツ等の衣類を始め、煙草等あり、便箋前其他はち切れる程に送って呉れた。今の我が境遇に非らずとし涙をとして受け取れば、僕は人に法々検閲官の面前で品々を手まずは活られなかった。僕も愛々新しく購入した物があるのには甚に例在軽んじく事にする事は断じて成し難い。いつも要らぬ好意だと涙あるのみである。

◇ ワパト地方同胞の退去命令 ◇

軍事的第二要地として発令された華州ワパト方面に於ける、在住同胞は第一地域の邦人退去を先にし然る後必要に応じ、立ち退きが強制されるものと了解であり、且つ発表にもなってゐた。然るに今回突然として、ワパト在住日本人に対し、来る三十日間以内（四月二日より）に evacuation を行ふべく発令されたと云ふ。僕も同地農家の一切の所有権は政府の手に没収される事に決定されとの情報さへある。

尚は右所有権云々の問題については未だ多く疑義があり確報はないが、ねね崎村氏のホームより送られ電報によると退去命令は

確実と成った。何分にも豫期しなかった突然の退去報道だけに、ワパト出身の同舎諸君が長年しヨツシは一通りでなく、極度の心痛憂悶に悩んでゐる。多年苦闘の結果汗によって築き上げた農園が一朝にして強制米人の手に引き渡されるとしたら二世十女に及ぼす影響は何んであらう。諸君の心痛実に同情に堪へない。殊にワパトの諸君は市出身諸君の如く、斯る場合にも尚ほ且つ呑気呼吸を敢てせず、憤慨はするものの静かに詳報を待つのであるから更に測隠の情を唆るのである。中にも野君の如きは、既に、戦争迄はなく必ずや運命と共にする外はないと、十分現下の事態に対する認識をもって断念の壮を定めてゐるのは痛々しさの限りである。

反面するに、今回の突発的退去命令は、米国在住米人団及び Grange 等の排日運動に基く、軍部に対する諸君の忘恩の結果とも推測されてゐる。従来同地方は日本人農家に依って殆ど勢力を占められ、市町は和人農家が経済的一大有力地位を占めて居り、従って屢々排日運動が潜りこんにも拘らず、軍に商人側の被護に依って終始したと謂へ。即ち時流に乗じ自己の利をむさぼらんがために、排日を用ひたとも云へるので将来或は中には此種の悪弊運動は各地に勃発するものと覚悟しなくてはなるまい。

鮮人通訳との諍闘

第収容所内に次のやうな事件が勃発したと報道される。

不正入国者に対する取調べが連日に渡つてゐるが、数日前のこと、一加州在住者がキャンプ内仮事務所で例の帝有改有直氏と称する移民官から訪問を受けた際、通訳の一朝鮮人は、係官に代つて、猛烈に荒たく難問やら尋問とりつゞけて、何かと卑しく侮辱的言辞を加へた揚句、遂に怒りがかつて、相手方の頭髪をかきむしるのみか、頬を強く突いた。すると前記の同胞はかつと怒り頭髪に発し、我慢の緒を切つて、該鮮人をいきなり叩り殺はした。彼は直に独房に収監されて了つたが、一時は相当の騒動を演じたと云ふ。然るに該事件は勿論鮮人の侮辱であるから、一両日の後独房から釋放される事に成つたのだ、彼人は傲然として曰く、身分は癌のため餘命短く既に医者から死の宣告を受けてゐる者だ、全同胞のために代つて、暴虐に対する懲懲をしたに過きない、どうせ死ぬ身だ、此の独房内に死んでやると。須臾にして世所に憂ひない、流石に当局も手を拱つた結果、田岡市長を通じ極力勧告した上、漸く釋放に物らしめたと言ふのである。

見て近来にない痛快事だと云つてよい。

木下氏葬儀

四月一日ロスアンゼルス Main Hospital にて逝去した本三機性者 熊本鮮人 木下龍吉氏（七十五才）

の追悼式は午前十時 Recreation Hall に於てキリスト教中條牧師司式により行はれた。羅府の伴者が弔辞演説を述べたが大脱線して切角の厳粛気分を乱して了つたと、会葬者諸者が頗る遺憾の意を漏らしてゐた。

March 4 (土)

二名新に収容

ヤキマから又一名黒川事者が送られて来た。十六番に収容される筈になつたと云ふ。同者は同地方の会の理事を過去約五ヶ年に亘り従事してゐたので、開戦同時に一番検の嫌疑になるべきなつたが、去る一日に漸く検挙されたと云ふ。

元シヤトルに在住者奥田勇者は奥地某所に鉄道就働中を検挙され収容された。同者は奥田翁の甥であり、義備兵でもあるといふ。

March (日) が Easter Sunday。

キリスト復活祭

白百合の芳香裡に各教会がキリストの復活を祝賀する Easter Sunday である。例年なれば大塩さんか、誰かからが、きつと僕の好愛する純白の lily 一鉢を贈つて呉れるのだ。戦時の今年は流石に市の英字紙にはシーズンの Lily 広告が全く其の姿を消して、都市の淋しさを反映して居る。

敗戦に花うえずあり復活祭。

数日前キャンプ内の基督教信者によつて、大十字架が